

テーマパネル6

かみかわぼんち

けいせい

上川盆地の形成

その3
常設展示室



それは、十勝岳火山群付近で複数の割れ目から多くのガスを含んだ大規模な噴火が発生し、噴出源にはカルデラを生じたと思われます。また噴火と同時に火砕流が発生し、高温のガスと粉体の混合物がかなり濃密な状態で地表を這うように流れ、陸化し低地帯であった上川盆地一帯を200m以上を埋め尽くしたと考えられています。噴出源に近い美瑛付近では、高温によりそれ自体が溶結してできた溶結凝灰岩の露頭が見られ火砕流堆積物の末端付近にあたる旭川

市の台場近辺では細粒の火山灰が見られます。現在、神居古潭峡谷から西側の深川方面にはこの火砕流堆積物は見ることができません。既に神居古潭構造帯が上昇し、その行方をさえぎったと思われます。

火山が発達し、山々が形成されることに伴い、河川も発達していきます。上川盆地を何度も埋め尽くした火砕流堆積物は河川によってすぐに侵食されますが、侵食をのがれた部分は神楽台や近文台（春光台）のような台地として残っています。旭川は、四方を山々に囲まれた盆地になっていること、4つの大きな河川が合流することにより盆地全体にわたって土砂が厚く堆積しました。それらは現在、私達の生活に欠かすことのできない、良質で豊富な地下水盆を形成しているほか、その表層部は生活の場として私達に提供してくれています。

(地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸)